

男女共同参画に関する住民アンケート結果

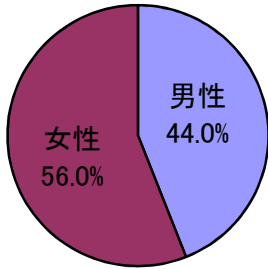
《回収率》

	男性	女性	合計
発送数	300人	300人	600人
回収数	98人	127人	225人
回収率	32.7%	42.3%	37.5%

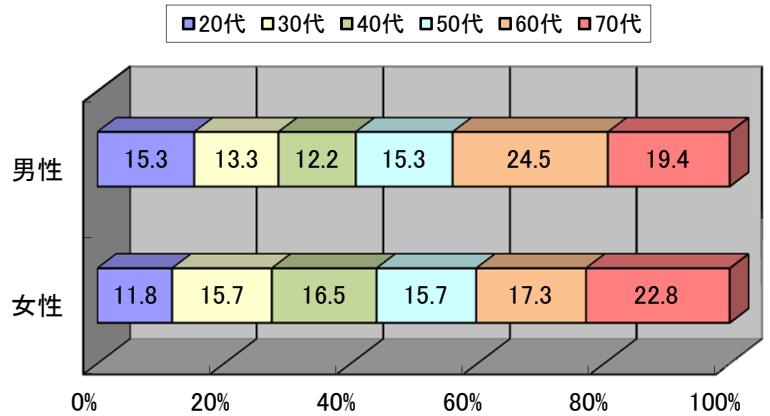
1. 調査対象 士幌町内に在住する20歳以上の男女
2. 抽出方法 性別・年代別の無作為抽出
3. 調査方法 郵送によるアンケート
4. 調査期間 平成27年5月25日～6月15日

◎回答者自身について

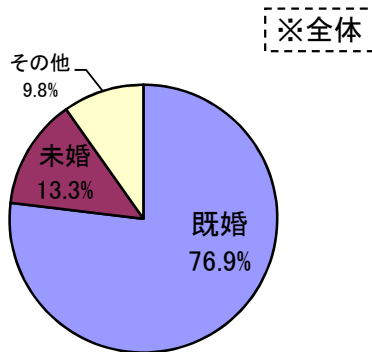
(1) 性別



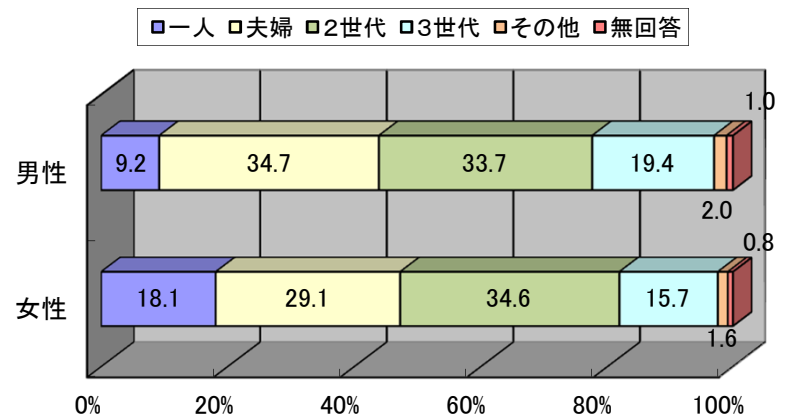
(2) 年代



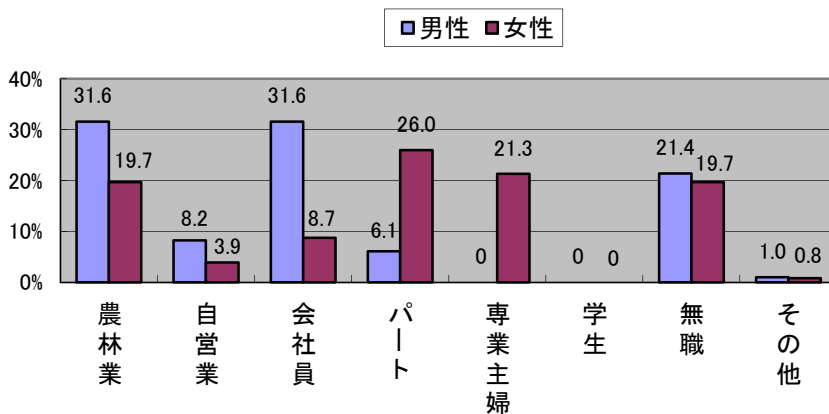
(3) 既婚・未婚



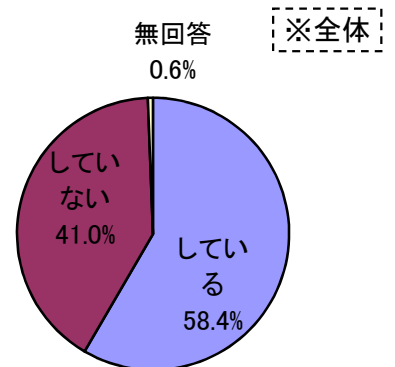
(4) 家族構成



(5) 職業



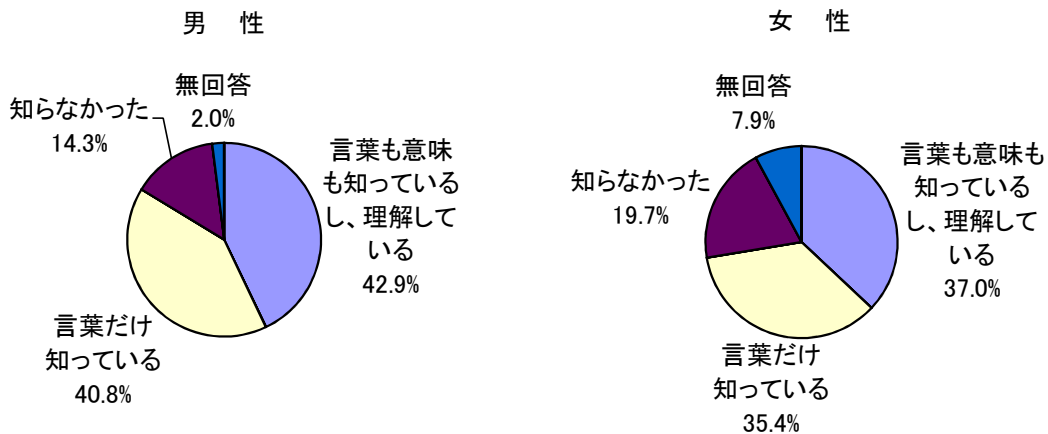
(6) 共働き(既婚者のみ)



男性は、農林業、会社員が3分の1を占め、次いで無職が21.4%となっている。女性は、パートの26.0%が最も多く、次いで専業主婦21.3%、農林業、無職が19.7%となり、会社員と答えた女性は男性の約4分の1となった。

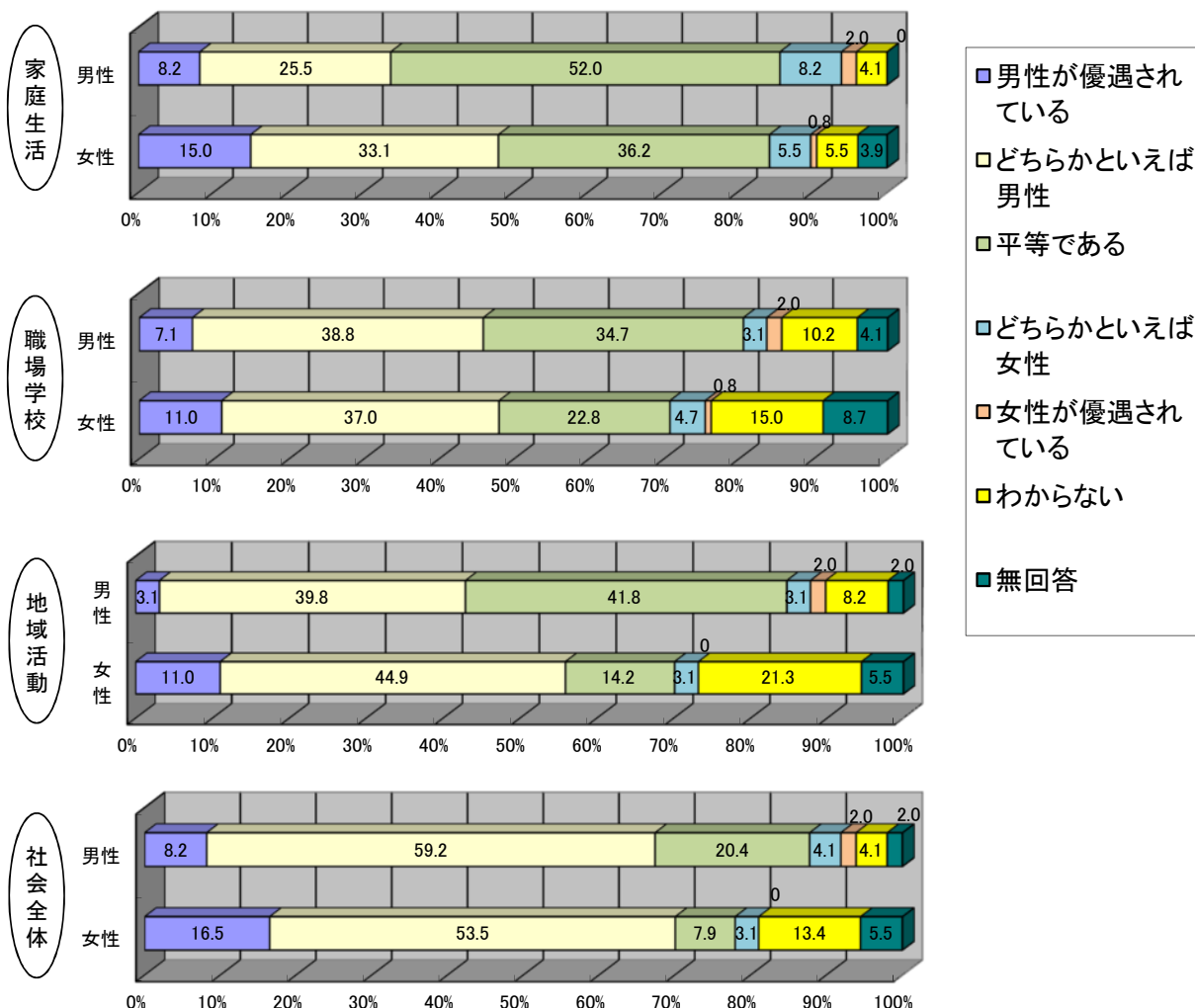
《男女平等意識》

問1 あなたは「男女共同参画社会」という言葉と意味についてご存知でしたか？



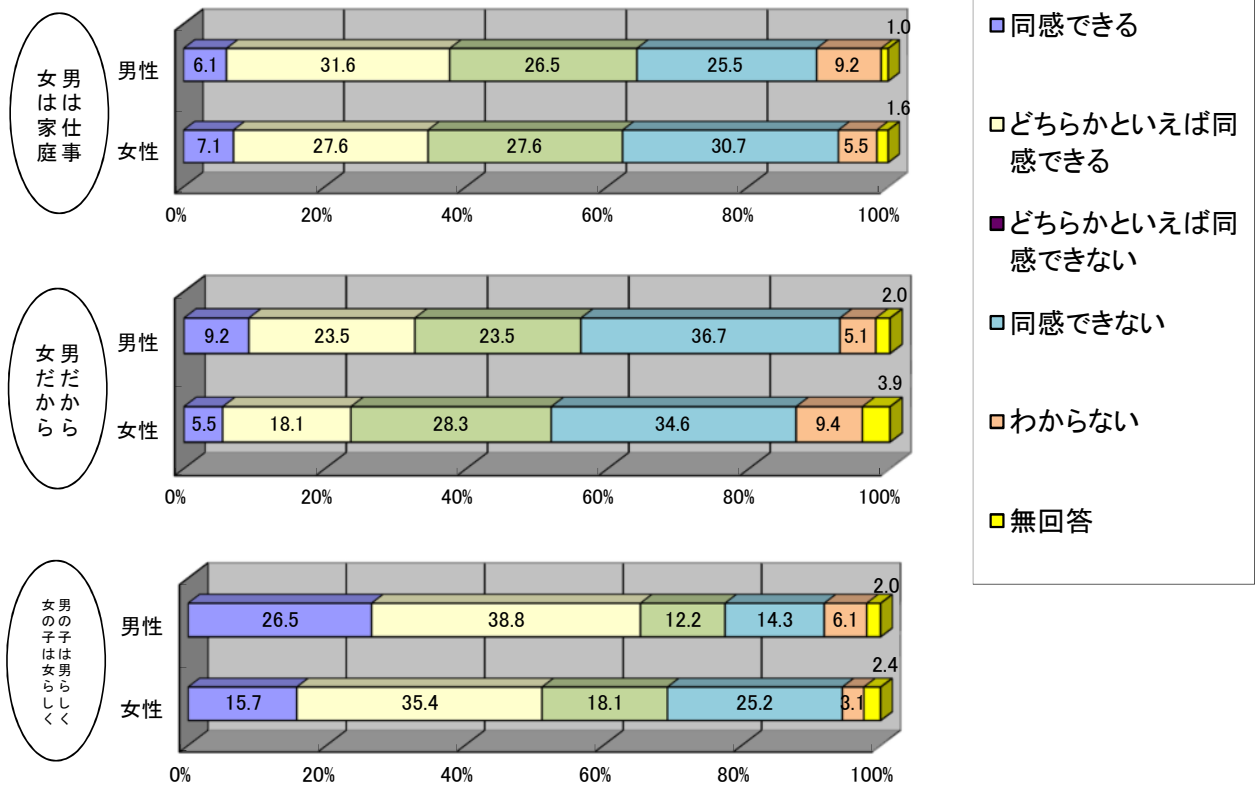
「言葉も意味も知っているし、理解している」と答えた人が男性42.9%、女性37.0%で、男女共に最も多かった。

問2 あなたは次の身近な項目について、男女平等になっていると思いますか？



家庭生活においては、男女共に「平等である」と答えた人が最も多いが、社会全体では男女共に「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人が大幅に多く、全ての分野において、「平等である」と答えた人は、男性より女性のほうが10%~30%低くなっている。

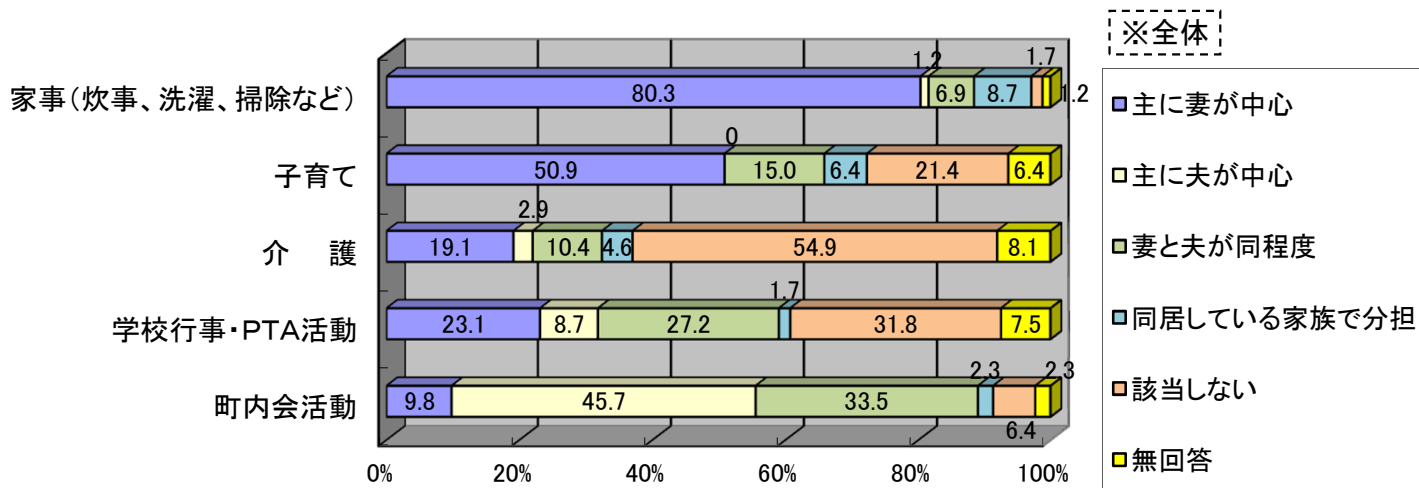
問3 次の項目について、あなたの考えに一番近いものはどれですか？



「男は仕事、女は家庭」、「男だから、女だから」の項目については、男女共に「同感できない」+「どちらかといえば同感できない」と答えた人が60%近く占める反面、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」の項目は、男女共に「同感できる」+「どちらかといえば同感できる」と答えた人が半分以上を占めている。

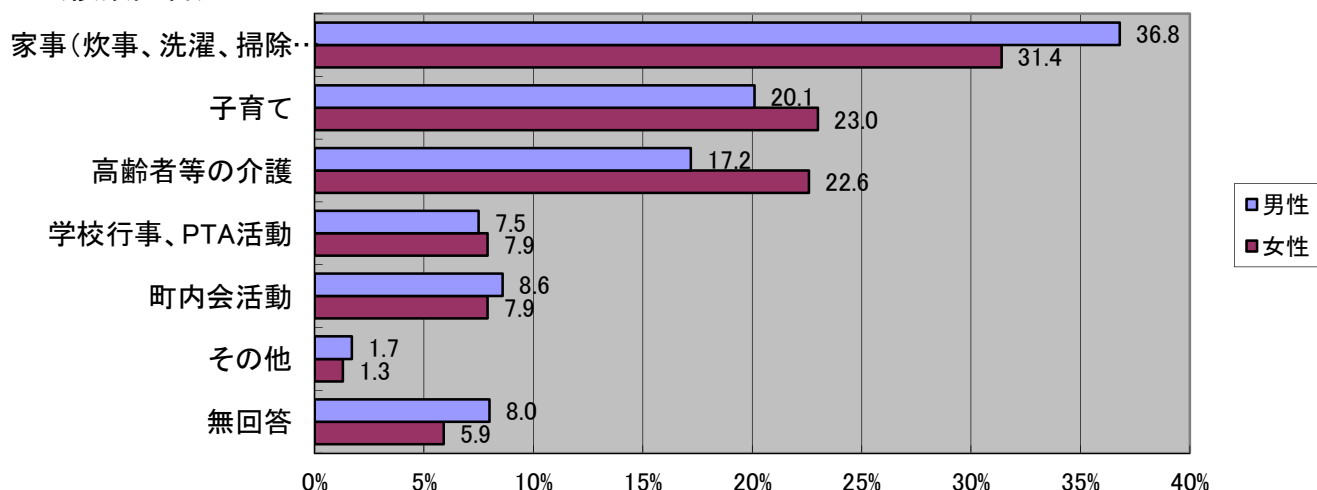
《家庭生活》

問4 あなたの家庭では次の項目についてどのように行っていますか？



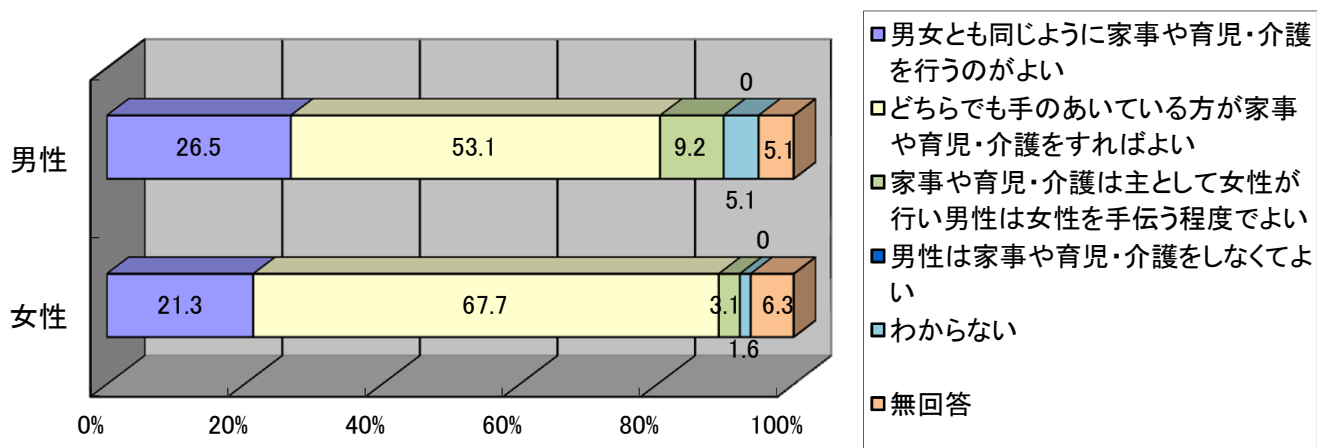
5項目中、「家事(炊事、洗濯、掃除など)」、「子育て」、「介護」の3項目については、主に妻が中心に行っている家庭が多く、「学校行事・PTA活動」については妻と夫が同程度行っており、「町内会活動」については4割以上が夫中心であった。

問5 問4の各項目の中で、あなたが男女平等の意識が遅れていると思われるものは何ですか？(複数回答)



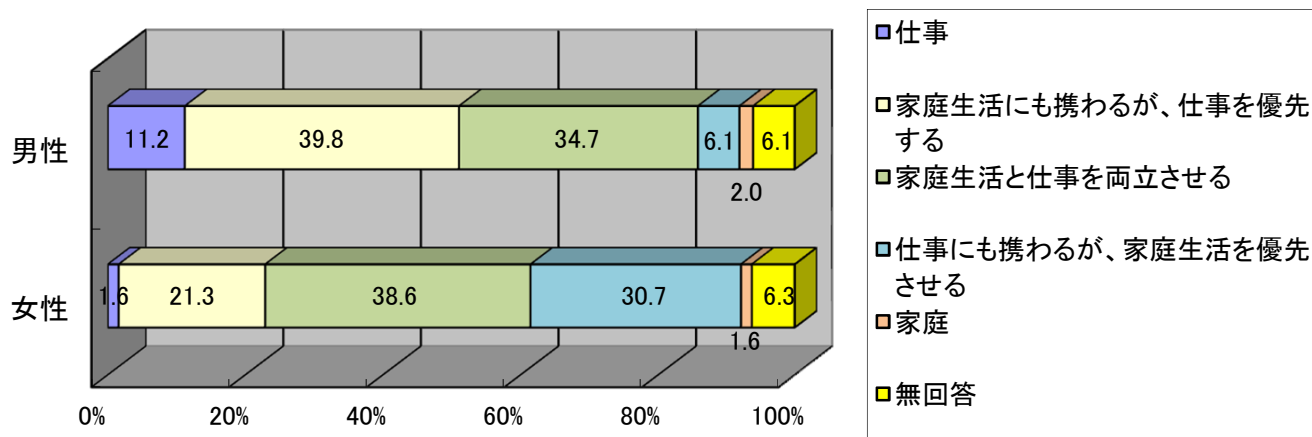
「家事(炊事、洗濯、掃除など)」について遅れていると答えた人が最も多く、男性では36.8%、女性では31.4%となった。次いで「子育て」、「高齢者の介護」が多く約20%を占めた。

問6 一般的に共働きの家庭での家事や育児・介護の役割分担について、あなたはどのように考えますか？



男女共に、「どちらでも手のあいてる方が家事や育児・介護をすればよい」と答えた人が半数を占め、次いで「男女とも同じように家事や育児・介護を行うのがよい」と答えた人が多かった。

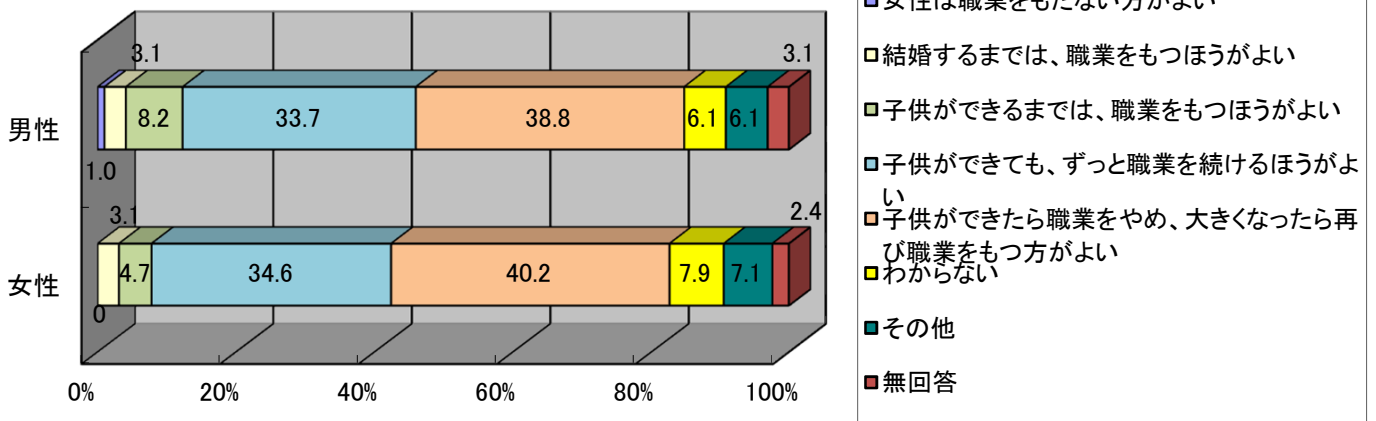
問7 あなたは、仕事と家庭生活のどちらを優先させるのが望ましいとおもいますか？



男性は「家庭生活にも携わるが、仕事を優先する」、女性は「家庭生活と仕事を両立させる」と答えた人が最も多く、共に4割を占めた。

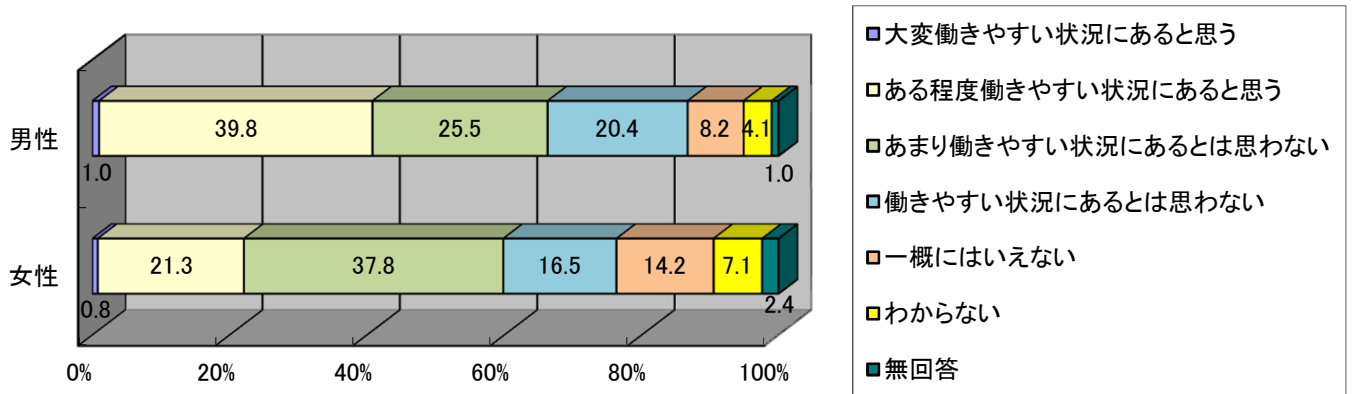
《仕事》

問8 あなたは女性が職業をもつことについて、どう思いますか？



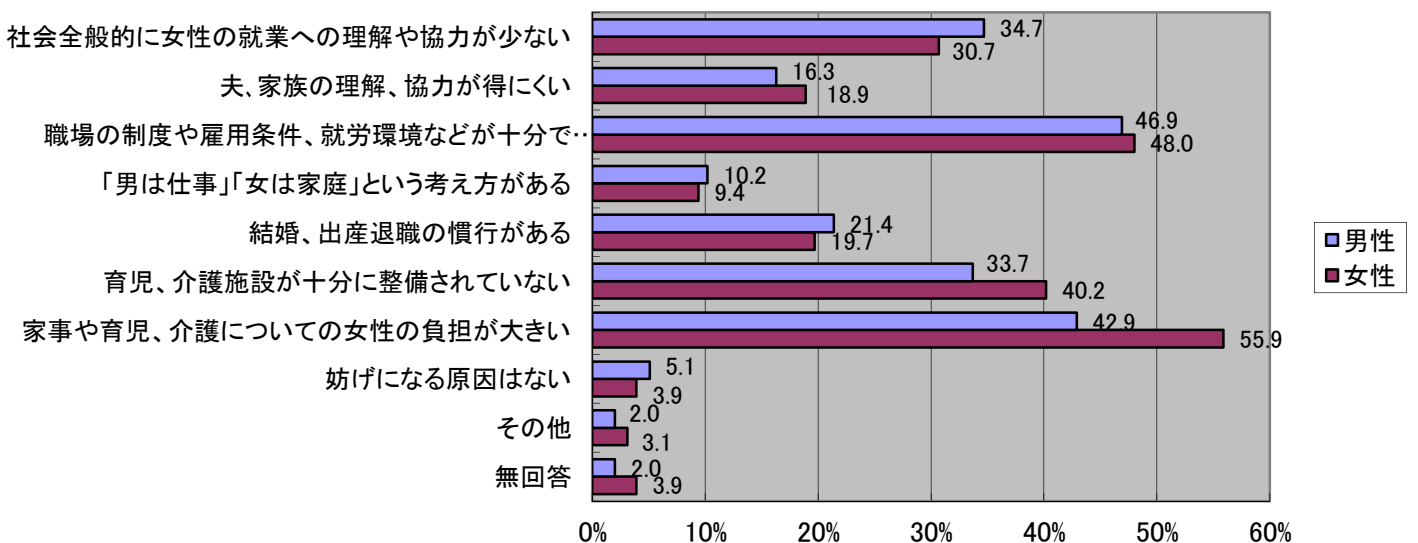
男女共に、「子供ができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が最も多く4割を占め、次いで多かったのが「子供ができて、ずっと職業を続けるほうがよい」という意見だった。

問9 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか？



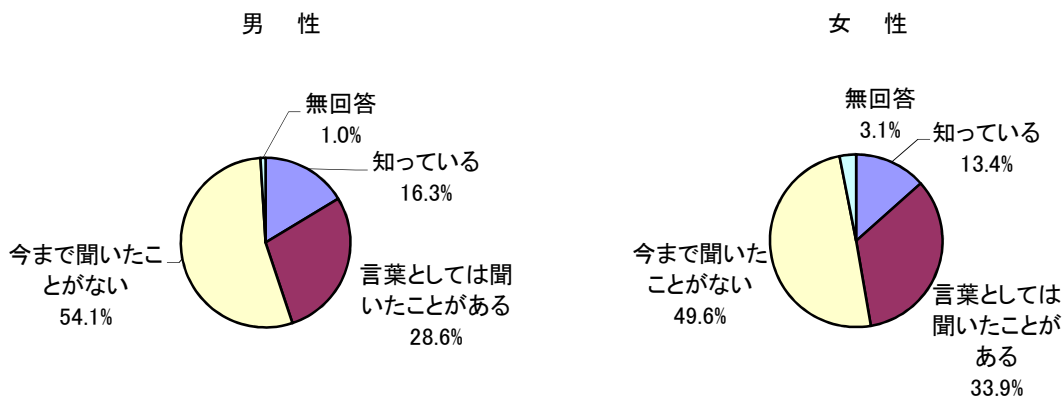
男性は「ある程度働きやすい状況にある」が最も多く39.8%であるのに対し、女性は「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」が最も多く37.8%であり、男性においても「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」+「働きやすい状況にあるとは思わない」と答えた人は45.9%に達した。

問10 女性が働くうえで妨げになる原因について、どのようにお考えですか？（複数回答）



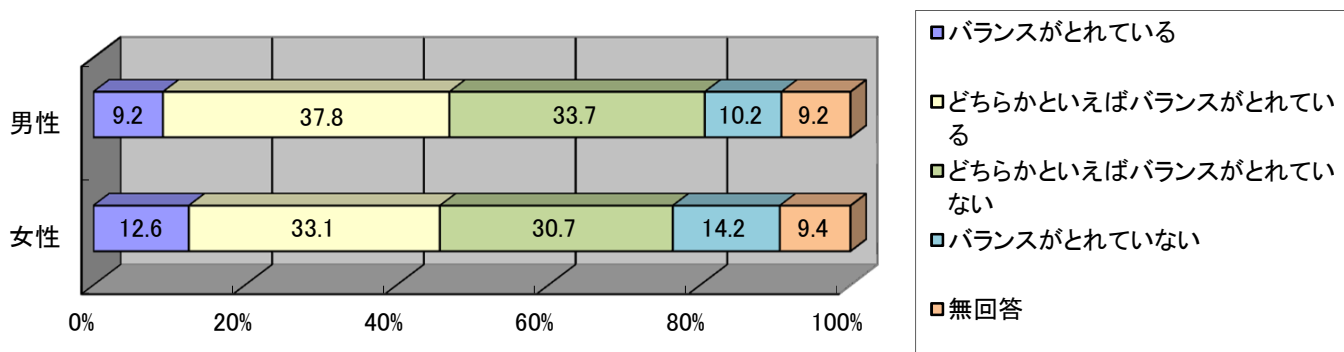
男女とも「家事や育児、介護についての女性の負担が大きい」と答えた人が最も多く、「職場の制度や雇用条件、就労環境などが充分でない」と答えた人が2番目に多かった。

問11 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉と意味についてご存知でしたか？



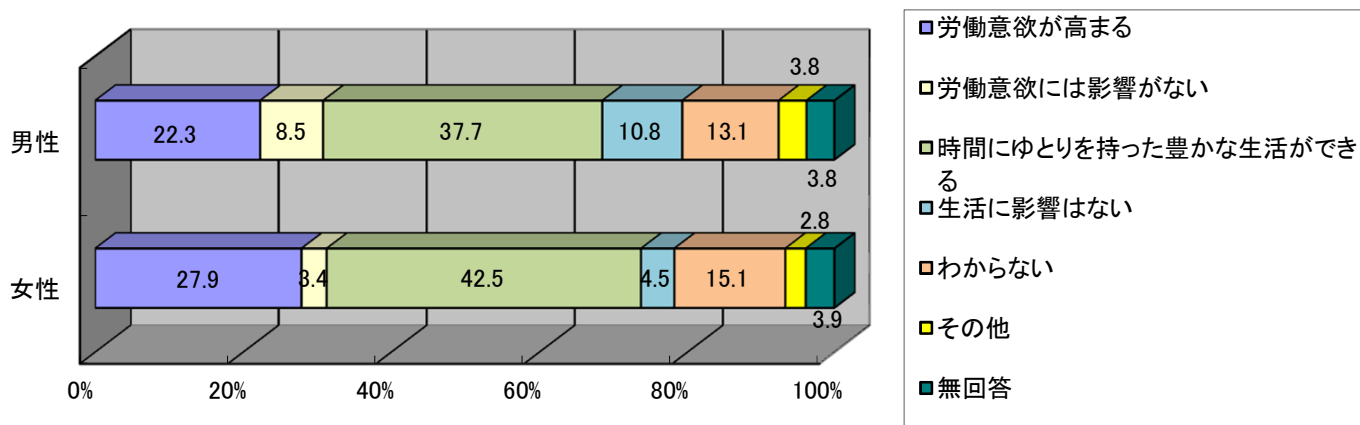
「今まで聞いたことがない」と答えた人が男性54.1%、女性49.6%で、男女共に最も多かった。

問12 ご自身の生活を考えたとき、ワークとライフのバランスがとれていると思いますか？



「バランスがとれている」+「どちらかといえばバランスがとれている」と答えた人が男性で47.0%、女性で45.7%、「どちらかといえばバランスがとれていない」+「バランスがとれていない」と答えた人についても男性で43.9%、女性で44.9%と、男女共にほぼ同じ割合となった。

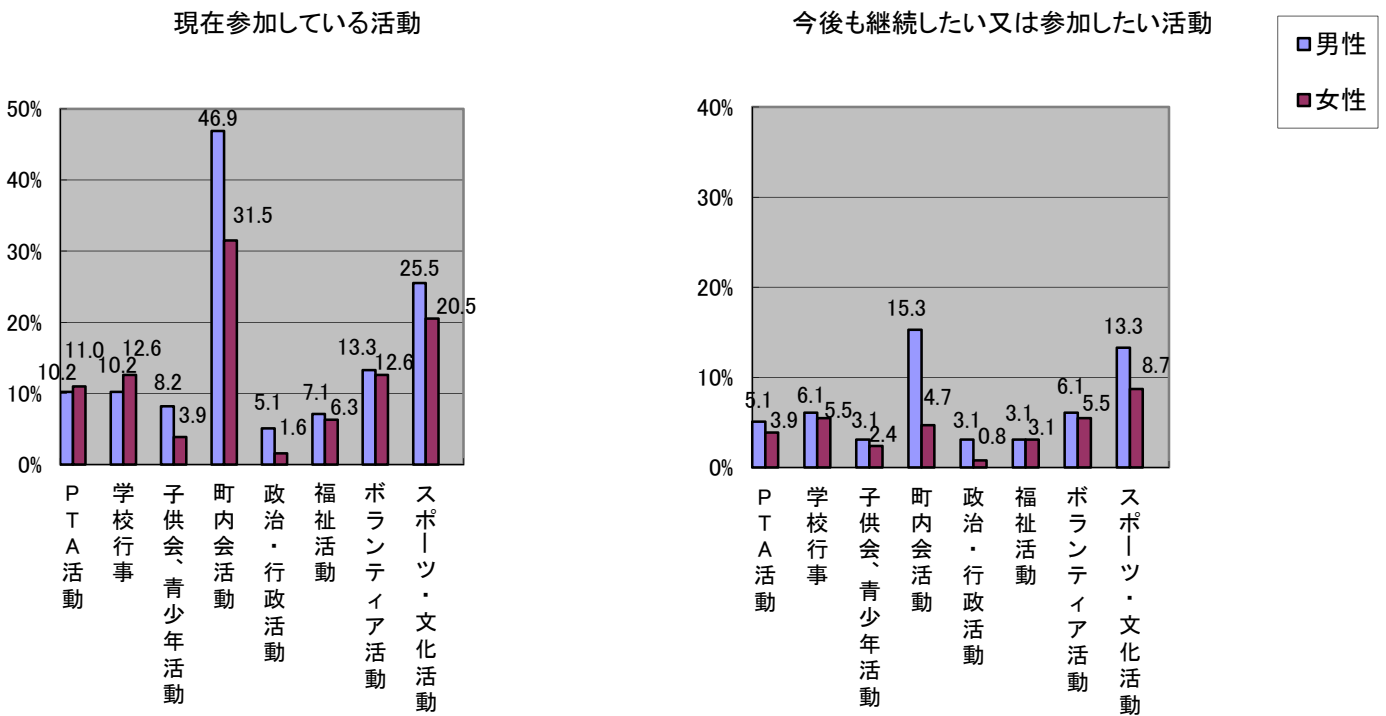
問13 あなたは、ワークライフバランスを進めることで、どのような効果があると思いますか？



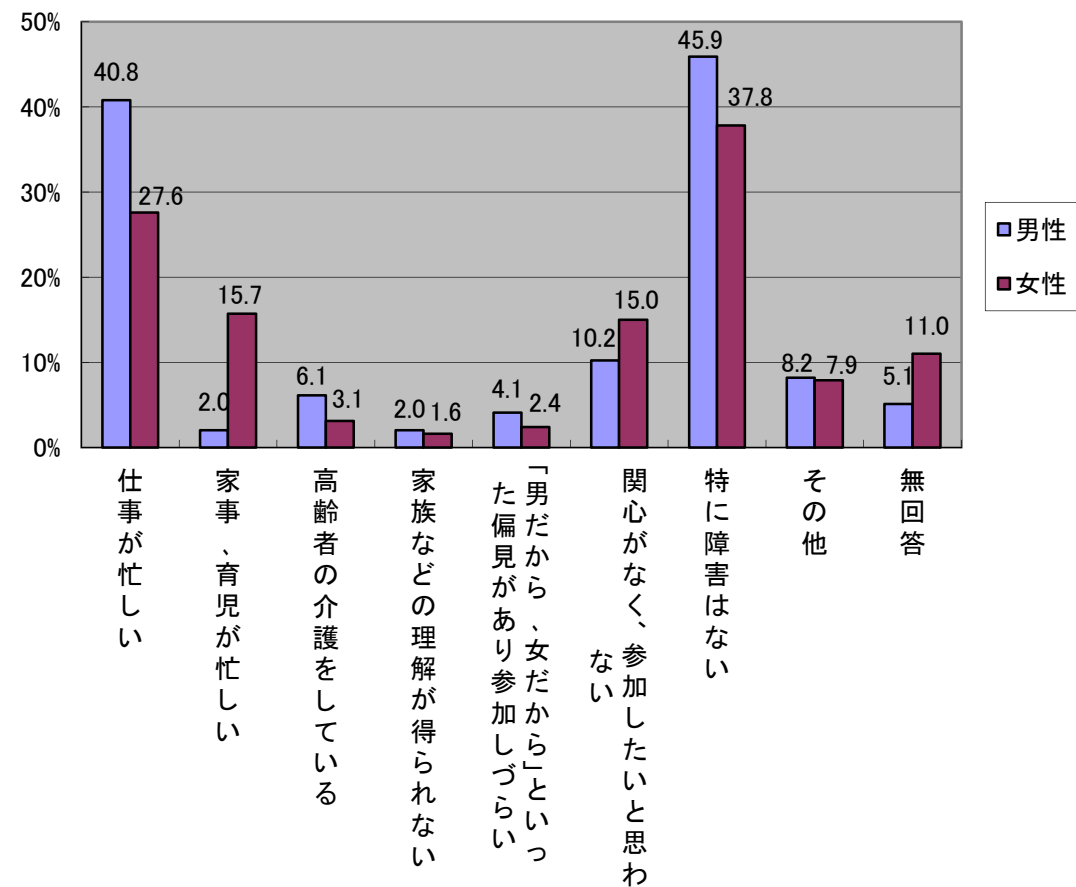
男女共に「時間にゆとりを持った豊かな生活ができる」と答えた人が最も多く、「労働意欲が高まる」と答えた人が2番目に多かった。

《地域活動》

問14 あなたが現在、参加している活動は何ですか？また、今後の活動についてどのようにしたいとお考えですか？
(複数回答)

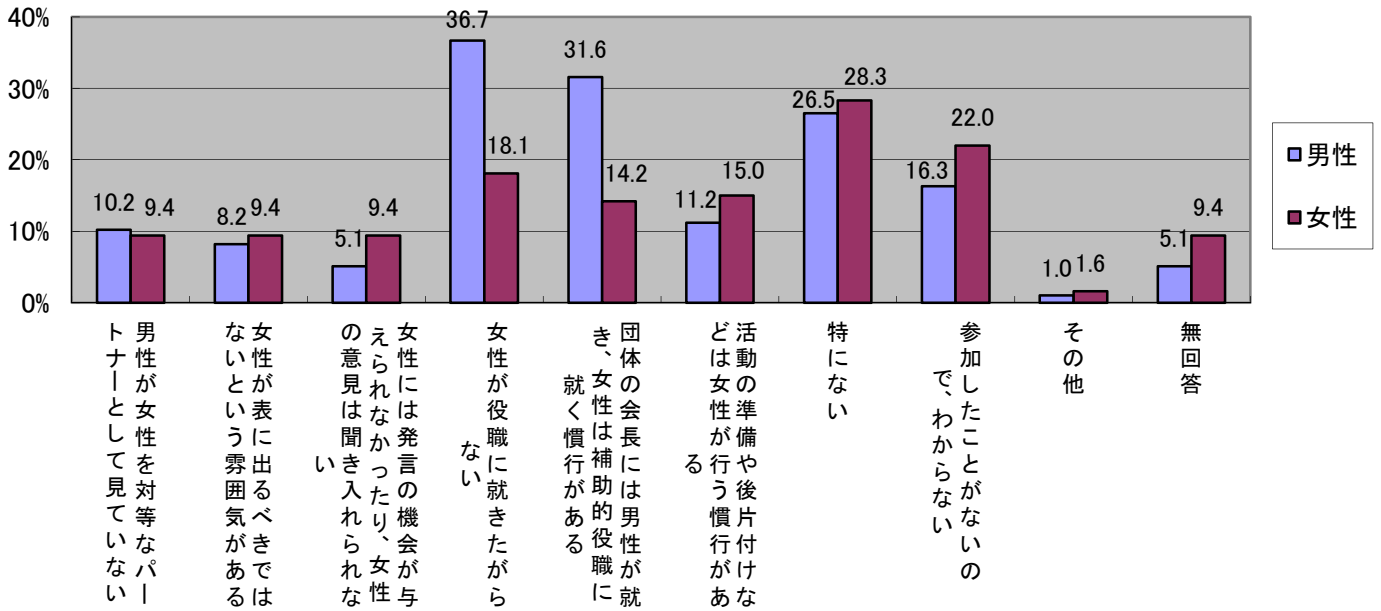


問15 あなたが問14のような各種活動に参加する場合、障害となることは何ですか？(複数回答)



男女共に、「特に障害はない」と答えた人が最も多く、「仕事が忙しい」と答えた人が2番目に多かった。また、「家事・育児が忙しい」と答えた女性は15.7%で、男性をはるかに上回った。

問16 地域の役割分担について思うことは何ですか？（複数回答）

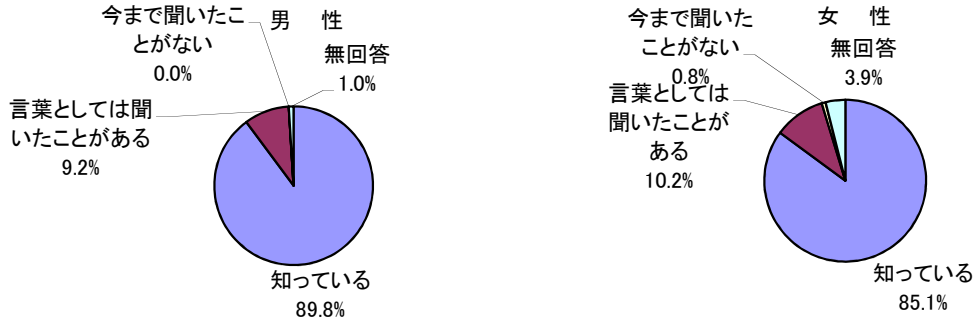


男性は「女性が役職に就きたがらない」と答えた人が36.7%で最も多く、女性は「特にない」と答えた人が28.3%で1番多かった。また、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」と答えた人が男性で31.6%と2番目に多くなっている。

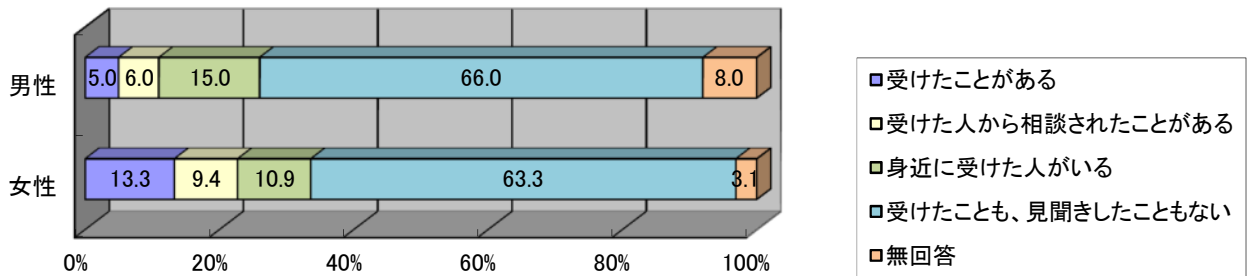
《男女の人権》

セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)

問17 セクシュアル・ハラスメントの言葉の意味を知っていますか？



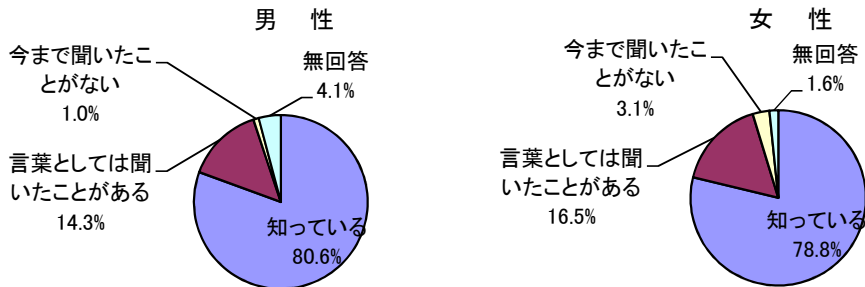
問18 職場、学校、地域、家庭でセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことがありますか？



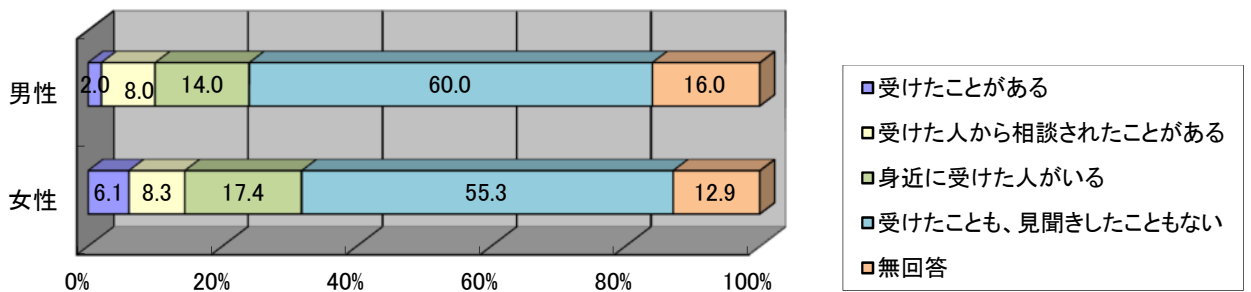
「受けたことも、見聞きしたこともない」と答えた人が最も多く、男性では66.0%、女性では63.3%となった。また、「受けたことがある」と答えた女性は13.3%となった。

ドメスティック・バイオレンス (DV)

問19 ドメスティック・バイオレンスの言葉の意味を知っていますか？

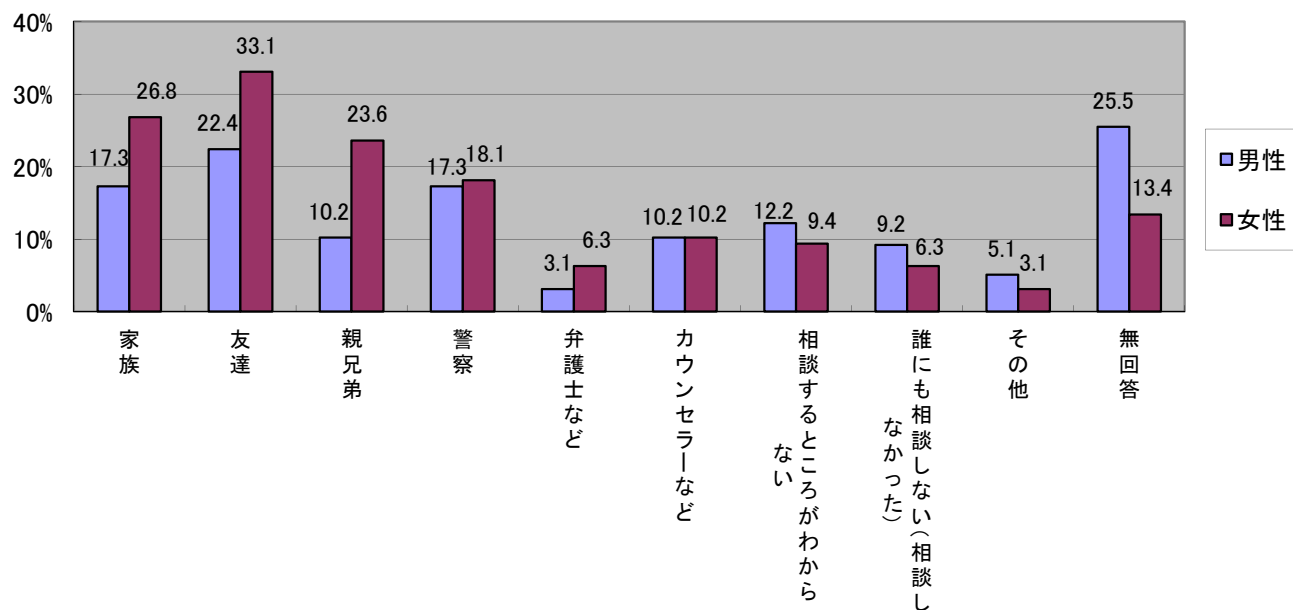


問20 ドメスティック・バイオレンスを受けたり、見聞きしたことがありますか？



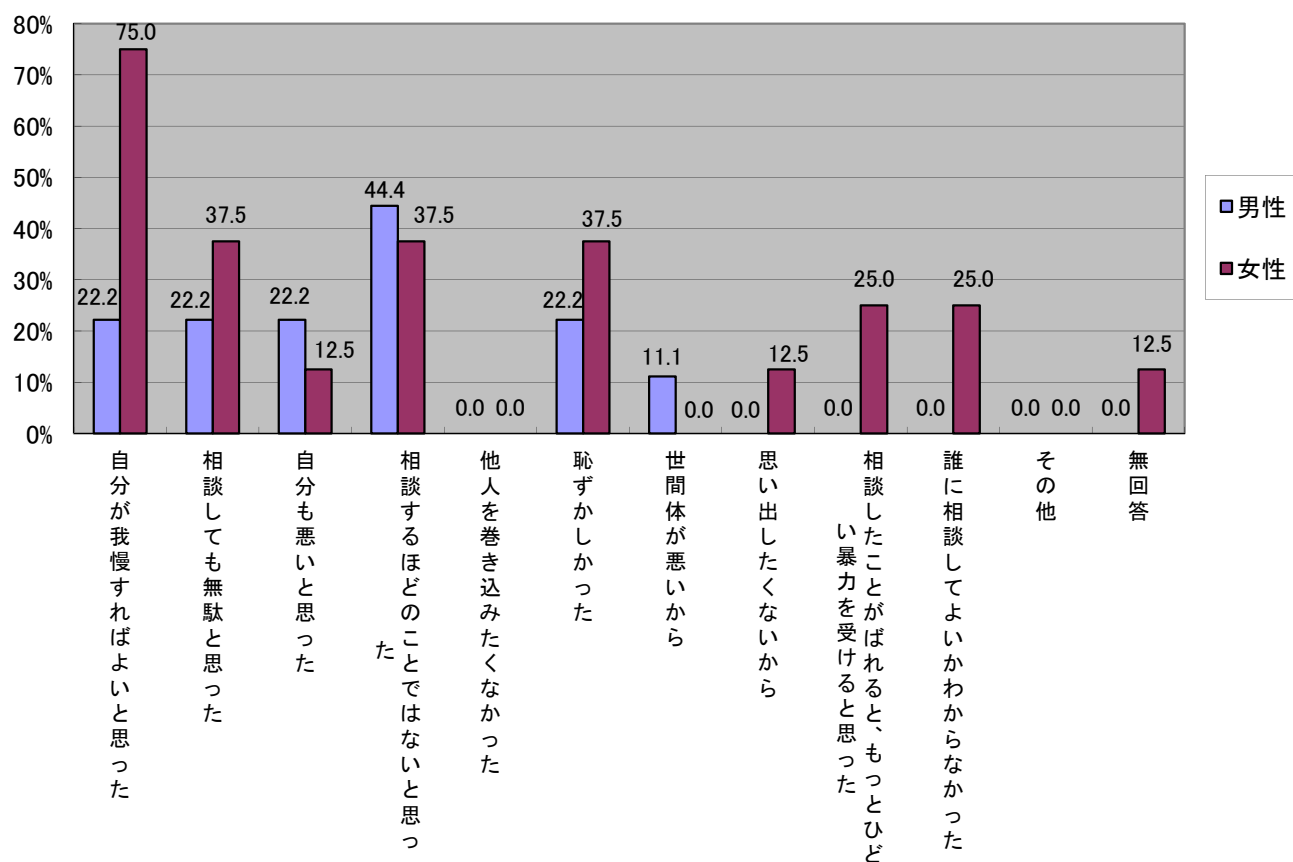
「受けたことも、見聞きしたこともない」と答えた人が最も多く、男性では60.0%、女性では55.3%となった。また、「受けたことがある」と答えた人は男性で2.0%、女性では6.1%となった。

問21 ドメスティック・バイオレンスを受けた場合、どなたに相談しますか？



男女共に「友達」と答えた人が最も多く、「家族」と答えた人が2番目に多かった。

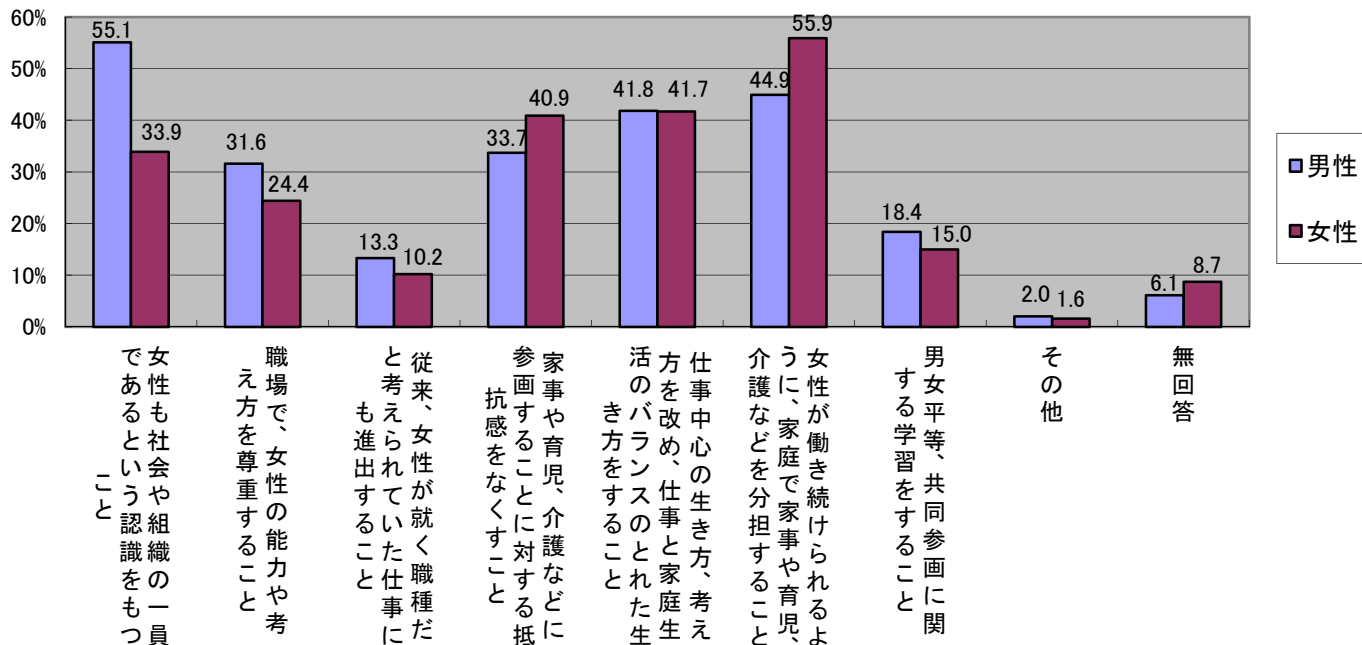
問22 問21で「誰にも相談しない(相談しなかった)」と回答した方にお尋ねします。誰にも相談しない(しなかった)のはなぜですか？



男性は「相談するほどのことではないと思った」と答えた人が44.4%で最も多く、女性は「自分が我慢すればよいと思った」と答えた人が75.0%で1番多かった。また、「相談しても無駄と思った」、「相談するほどのことではないと思った」、「恥ずかしかった」と答えた人が女性で37.5%と2番目に多くなっている。

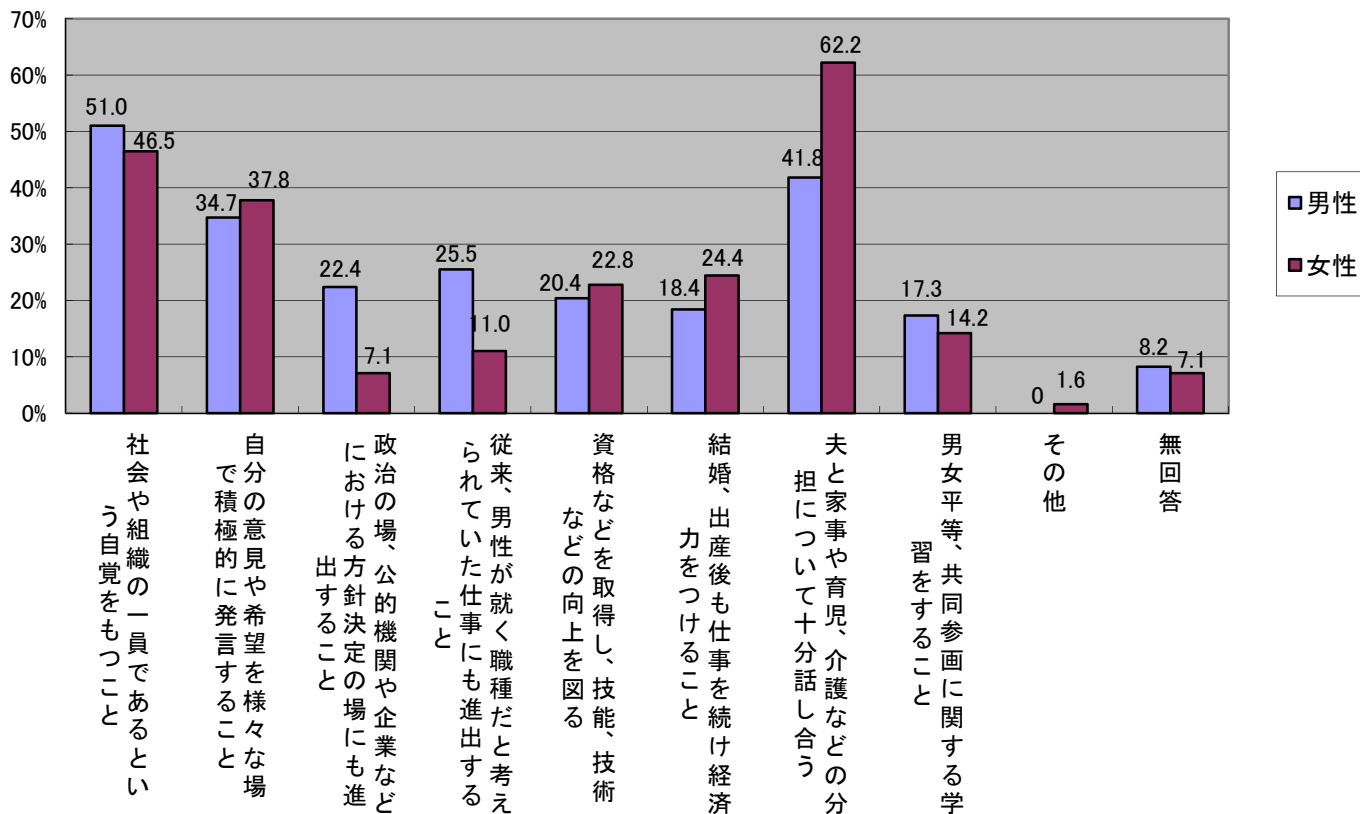
《男女共同参画》

問23 女性と男性が家庭、職場、学校、地域、政治の場などのあらゆる分野に、共同で参画する社会を実現するためには、男性はどのようにすることが必要だと思いますか？（複数回答）



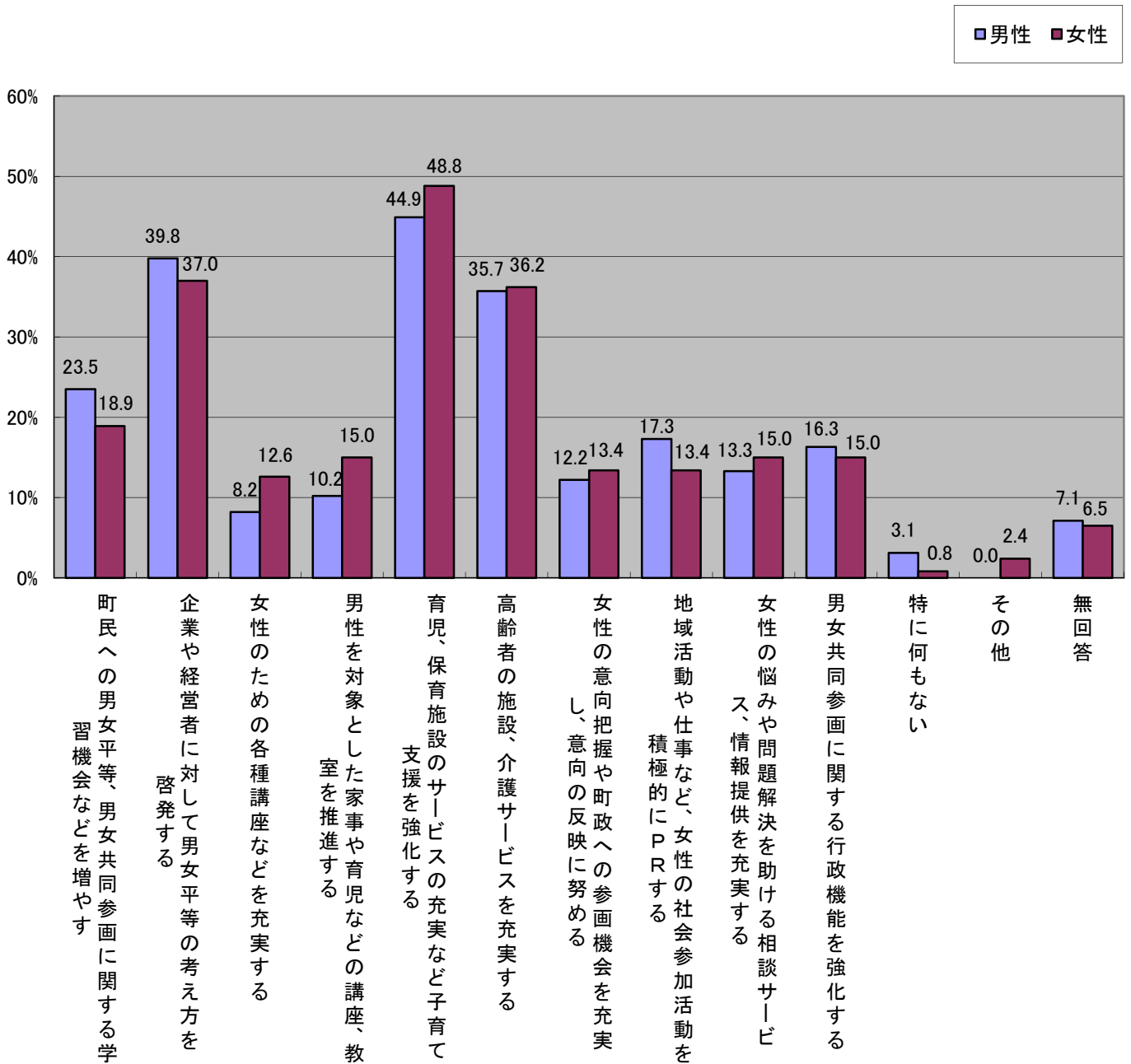
男性では「女性も社会や組織の一員であるという認識をもつこと」と答えた人が55.1%、女性は「女性が働き続けられるように、家庭で家事や育児、介護などを分担すること」と答えた人が55.9%でそれぞれ1番多かった。また、女性では「仕事中心の生き方、考え方を改め、仕事と家庭生活のバランスのとれた生き方をする」、「家事や育児、介護などに参画することに対する抵抗感をなくすこと」と答えた人がそれぞれ4割以上となった。

問24 女性と男性が家庭、職場、学校、地域、政治の場などのあらゆる分野に、共同で参画する社会を実現するためには、女性はどのようにすることが必要だと思いますか？（複数回答）



半数近くの人が「社会や組織の一員であるという自覚を持つこと」が必要であると答えている。また、「夫と家事や育児、介護などの分担について十分話し合う」と答えた人は、女性で62.2%、男性は41.8%となり、女性の割合が多くなっている。

問25 男女共同参画を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか？



男女共に、「育児、保育施設のサービスの充実など子育て支援を強化する」を第1位にあげ、次いで「企業や経営者に対して男女平等の考え方を啓発する」、「高齢者の施設、介護サービスを充実する」、「町民への男女平等、男女共同参画に関する学習機会などを増やす」の順で高い数値となっている。

問26 男女共同参画を進めるうえで、あなたのご意見、ご要望などをご記入ください。

《 男性 》

- ・男女平等にはならない。(20代・未婚)
- ・男女共同参画を考える中で、行政がやたらと女性を参加させるために働きかけすぎると女性の意識は育たないのでは。環境を女性が働きやすいように改革させていくことは大事だが、今の女性はしっかり考えていると思うので、出てくる芽を待ち、出てきた芽を大事に育てていくスタンスの方が自然と参画が進むのでは。(30代・既婚)
- ・平等とは、不可能に近い。しいて言うならば時間だけが平等だと思う。(30代・未婚)
- ・政治や行政など、上のほうで積極的に進めていかないと良くなれないと思う。(40代・既婚)
- ・全ての場に男女が共同で参画すべきとは思わない。個人によっても差はあるが、一般的な男性、女性には特性に差があるのが事実であり、それを踏まえてどう参画すべきか考えるべき。会社でも女性が全ての職域に参画できる機会は与えられるべきだが、全ての女性がそれに適合するとは考えていない。(50代・既婚)
- ・男女が全て同じように活動してゆくには無理があると思う。男女がそれぞれの特性にあった活動をし、それをお互いに理解し助けあっていくことが必要だと思う。今の社会では本当の男女共同参画は難しい。(60代・未婚)
- ・まずは男女平等の教育を受けさせること。未だに女に教育は必要ないと思っている親がいることに驚いたことがある。(60代・既婚)
- ・男女共同参画は時代の要請だろうが、多くの家庭の現実は今々の生活基盤設計に追われ、本課題を考える余裕がない。(60代・既婚)
- ・条件整備が確立した上で、女性の意志を尊重した男性の理解と協力が必要と思う。(60代・既婚)
- ・自分も勉強不足ですが、男女が共に責任を担うべき社会というのが、最終的に何を目指しているのか分かりません。極論から言うと、世の中平等というのはありません。経済格差、男女の性差等々、平等の考え方もあると思いますが、私は本当の平等はないと思います。ですから少しでも改善していければよいと思います。(60代・既婚)
- ・女性が結婚し、子供の育てやすい地域社会をつくる。(70代・既婚)

《 女性 》

・夫の勤め先では、残業が当たり前で、休みも取りにくいようです。男性がもっと気軽に子育て、介護のためにまとまった休みを年数回取得できるような制度や、企業のあり方を考えてもらえたらありがたいです。また、町内に病児保育をしてくださる所があると、働く女性にとっては助かります。(20代・既婚)

・講座などの学習の機会があっても、小さな子供のいる女性は、子供を見てくれる人がいなければ参加もできないので、保育や託児のサービスを充実させるべき。(20代・既婚)

・もともと男性と女性は持っている能力や役割が違うので、各々の優れているところを発揮できるフィールドを作ってほしい。(20代・既婚)

・男女共同参画の機会を作ることはよいが、共同参画を強要しないようにしてほしい(無理に役職に就けるなど)。やる気のある人が参加できる環境をまず整えてほしい。(20代・既婚)

・男性と女性は違うものであり、「男女平等」をあまり無理に神経質に押し進めてしまうのは良くないと思う。程よく働きたい女性が働きやすい環境を整えていければ良いと思う。あまり啓発しすぎると、今度は男性が女性に対して意見をしにくくなってしまったりして、みんな敏感になりすぎるといった問題も起こってしまうだろうから、気をつけなくてはならないと思う。(20代・未婚)

・男性と女性は役割が違うため、平等に働くことは難しいと思います。私は平等というよりは、男性が社会で働き、女性が安心して家庭をある程度守り、ストレスがたまらない程度で働くことができる社会が理想です。そのためにも子育ての支援が手厚くなると良いと思います。(30代・既婚)

・女性は今の仕事(環境)について、どうしてほしいと望んでいるのかを確認する機会が必要かも。(30代・既婚)

・就学前の子供がいる家庭では、身近に育児を協力してくれたりといったサポートが必要だが、そういった人がいない場合は、母親が仕事を続けるのは難しい。保育園の延長保育や病児保育の充実が必要と感じる。社会で働いていくには、女性の育児休業取得だけでなく、男性の育児休業取得や休暇も取れる雇用環境が必要だ。(30代・既婚)

・家族が組織の役員につくと、家族も何らかの手伝いをしなければならないような風潮があるのが困ります。それぞれ個々と考えて頂ける空気感がほしいです。(40代・既婚)

・子育て、介護など、家庭の事を男性と女性が同じくやるには、男性の仕事が大変で現実にはなかなか協力できないと思います。今の社会では女性もフルで働くと子供への愛情と過ごす時間が不足してしまいます。短時間で働ける場が増えることを望みます。(40代・既婚)

・国として推進している事と思いますが、いまひとつ理解できません。実際、言葉、理念だけで社会的には女性が子供できると退職をせまられる世の中と考えると定着するのか疑問です。(40代・未婚)

・地区役員や議員等の人選などを男性だけで決定するので、女性の意見が取り入れずらい状況に思われます。(特に農村部)女性も興味がない、面倒だという人が多く、また、意欲があっても家族や周囲の理解がなかなか得られないのではないかと思います。(50代・既婚)

・子供の頃から、学校教育で教えていくことが大切です。(60代・既婚)